令和３年６月17日

令和２年における山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課

１　概要

⑴　全国の発生状況

令和２年の山岳遭難は

○　発生件数　　２，２９４件　（前年対比－２３７件）

○　遭難者　　２，６９７人　（前年対比－２４０人）

うち死者・行方不明者

２７８人　（前年対比－２１人）

負傷者　　９７４人　（前年対比－２１５人）

無事救助　１，４４５人　（前年対比－４人）

であった。

過去１０年間の山岳遭難発生状況をみると、増減しながらも増加基調であったが、令和元年から２年連続で減少した。

⑵　都道府県別の発生状況

都道府県別の山岳遭難発生状況をみると、最も多いのが長野県１８３件、次いで北海道１７６件、神奈川県１４４件であった。

２　特徴

⑴　目的別・態様別

遭難者２，６９７人について、目的別にみると、登山（ハイキング、スキー登山、沢登り、岩登りを含む。）が７５．６％と最も多く、次いで山菜・茸採りが１４．１％を占めている。

また、態様別にみると、道迷いが４４．０％と最も多く、次いで滑落が１５．７％、転倒が１３．８　％を占めている。

⑵　年齢層別

遭難者のうち４０歳以上が２，１１５人と全体の７８．４％を占め、また、６０歳以上が１，３５０人と全体の５０．１％を占めている。

また、死者・行方不明者では、４０歳以上が２５４人と全体の９１．４％を占め、６０歳以上が２０３人と全体の７３．０％を占めている。

⑶　単独登山者の遭難状況

単独登山（「山菜・茸採り」、「観光」等も含む。）遭難者１，０８６人のうち、死者・行方不明者は１７２人で、１５．８％を占めており、複数登山（２人以上）遭難者の死者・行方不明者の割合（６．６％）と比較すると９．２ポイント高くなっている。

⑷　通信手段の使用状況

発生件数２，２９４件の８０．１％が遭難現場から通信手段（携帯電話、無線（アマチュア無線を含む。））を使用し、救助を要請している。

ＧＰＳ機能付きの携帯電話等は、自分の現在地をより速やかに救援機関に伝えることができるなど、救助要請手段として有効であるものの、多くの山岳では通話エリアが限られることやバッテリーの残量に注意が必要である。

３　山岳遭難防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、遭難を防ぐためには、以下のような点に留意する必要がある。

○　的確な登山計画と万全な装備品等の準備

気象条件や体力、技術、経験、体調等に見合った山を選択し、余裕のある登山日程、携行する装備、食料等に配意し、安全な登山計画を立てる。

登山計画を立てるときは、滑落等の危険箇所や、トラブル発生時に途中から下山できるルート（エスケープルート）等を事前に把握する。

また、登山予定の山の気候に合った服装や登山靴、ヘルメット、雨具（レインウェア）、ツェルト（簡易テント）、地図、コンパス、行動食等登山に必要な装備品や、万一遭難した際に助けを呼ぶための連絡用通信機器（携帯電話、無線機、予備バッテリー等）を準備するなど、装備を万全に整える。

なお、単独登山は、トラブル発生時の対処がグループ登山に比べて困難になることが多いことを念頭に、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

○　登山計画書・登山届の提出

登山計画書・登山届は、家族や職場等と共有しておくことにより、万一の場合の素早い捜索救助の手掛かりとなるほか、計画に不備がないか事前に確認するものであることを認識する。また、作成した登山計画書・登山届は、一緒に登山する仲間、家族や職場等と共有するとともに、登山口の登山届ポスト、都道府県警察、自治体などに提出する。

○　道迷い防止

地図の見方やコンパスの活用方法を習得し、登山には地図やコンパス等を携行して、常に自分の位置を確認するよう心掛ける。

○　滑落・転落防止

日頃から手入れされた登山靴やピッケル、アイゼン、ストック等の装備を登山の状況に応じて的確に使いこなすとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

○　的確な状況判断

霧（ガス）や吹雪等による視界不良や体調不良時等には、道に迷ったり、冷静さを失い、滑落等の危険が高まることから、「道に迷ったかも。」と思ったら、闇雲に進むことなく、今歩いて来た道を辿り、正規の登山道まで引き返す

など、状況を的確に判断するとともに、早めに登山を中止するよう努める。

○　新型コロナウイルス感染防止

山域を管轄する自治体の移動制限等の情報、公共交通機関の運行状況や山小屋等の運営状況を確認する。

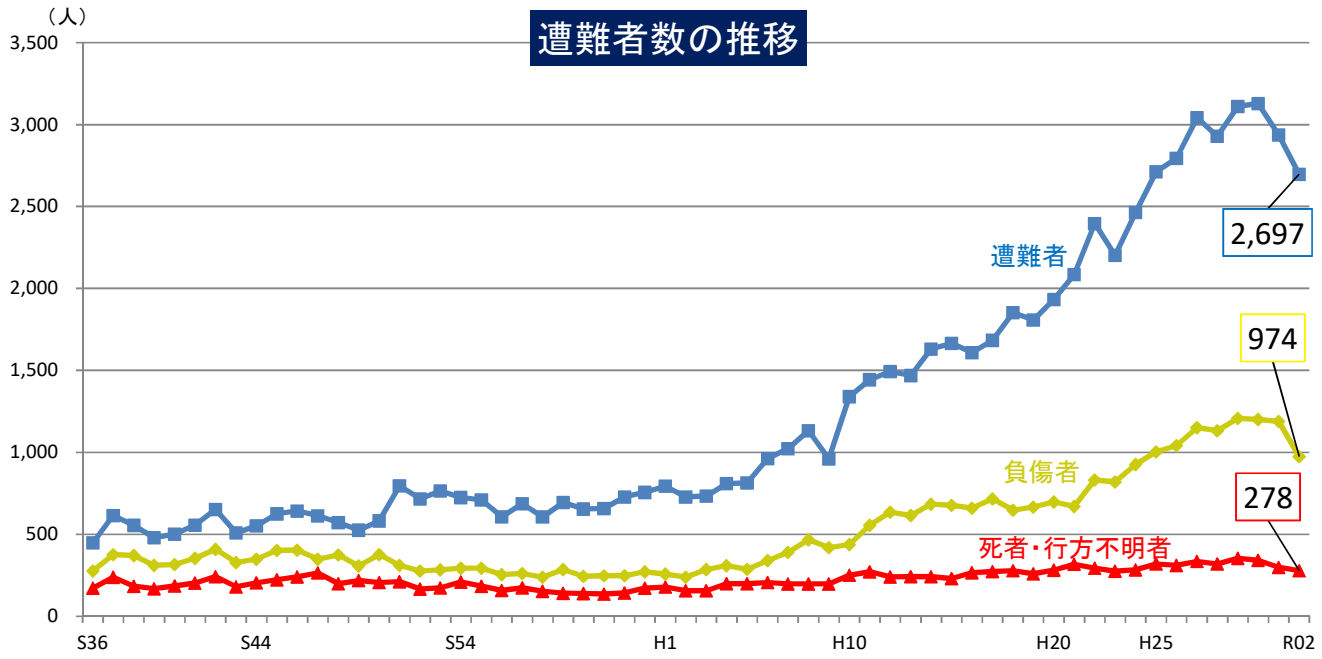
日頃から健康管理を行い、少しでも体調不良があれば、入山を控える。

また、行動中は、周囲の人となるべく距離をあけ、気温が高い時は、熱中症のリスクが高くなることから、息苦しさを感じる際は、マスクを外すようにする。

注：％は、小数点以下第２位を四捨五入（表１～８においても同じ。そのため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。）。

表1　概要

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	構成比
発生件数（件）	1,830	1,988	2,172	2,293	2,508	2,495	2,583	2,661	2,531	2,294	
遭難者数（人）	2,204	2,465	2,713	2,794	3,043	2,929	3,111	3,129	2,937	2,697	100.0%
死者・行方不明者	275	284	320	311	335	319	354	342	299	278	10.3%
死　　者	244	249	278	272	298	278	315	298	267	241	8.9%
行方不明者	31	35	42	39	37	41	39	44	32	37	1.4%
負　傷　者	819	927	1,003	1,041	1,151	1,133	1,208	1,201	1,189	974	36.1%
無事救出者	1,110	1,254	1,390	1,442	1,557	1,477	1,549	1,586	1,449	1,445	53.6%



注:「遭難者数」には、昭和51年から無事救出者を含む。

表2　都道府県別山岳遭難発生状況

（令和2年）

都道府県	発生件数（件）	遭難者数（人）				
			死者	行方不明者	負傷者	無事救出
北海道	176	209	20	5	53	131
青森県	82	87	9	1	20	57
岩手県	39	44	6	1	17	20
宮城県	38	45	7		9	29
秋田県	57	64	14	2	9	39
山形県	55	58	8	5	25	20
福島県	54	65	7	1	19	38
東京都	110	120	6		71	43
茨城県	28	34	4		11	19
栃木県	56	62	6	1	35	20
群馬県	85	107	8	1	47	51
埼玉県	58	71	8		24	39
千葉県	15	28	1	1	2	24
神奈川県	144	176	6		70	100
新潟県	76	87	10	1	34	42
山梨県	111	132	12	3	46	71
長野県	183	198	32	3	85	78
静岡県	34	37	8	2	7	20
富山県	74	78	8		45	25
石川県	24	24	2	2	10	10
福井県	15	16			10	6
岐阜県	68	73	7		29	37
愛知県	38	41	1		17	23
三重県	66	79	5	2	36	36
滋賀県	79	84	8	2	39	35
京都府	33	44	2		10	32
大阪府	15	15			7	8
兵庫県	114	145	7		51	87
奈良県	56	69	3	2	28	36
和歌山県	8	15	2			13
鳥取県	26	28			15	13
島根県	9	11	1		5	5
岡山県	9	11	2		2	7
広島県	26	35	2	1	14	18
山口県	10	15			5	10
徳島県	9	10	1		1	8
香川県	4	4	1	1		2
愛媛県	17	24	2		3	19
高知県	7	7	2		2	3
福岡県	44	55	4		15	36
佐賀県	10	16	1		6	9
長崎県	12	18			2	16
熊本県	13	18	2		4	12
大分県	45	62	1		12	49
宮崎県	20	23	2		8	13
鹿児島県	33	35	3		14	18
沖縄県	9	18				18
合計	2,294	2,697	241	37	974	1,445

表3　目的別山岳遭難者

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
登　　山	2,101	2,223	2,315	2,223	2,038	75.6%
登　　山	1,867	1,957	2,022	1,902	1,681	62.3%
ハイキング	110	136	161	159	233	8.6%
スキー登山	32	65	54	70	43	1.6%
沢　登　り	48	36	47	57	42	1.6%
岩　登　り	44	29	31	35	39	1.4%
山菜・茸採り	386	380	385	360	381	14.1%
そ　の　他	442	508	429	354	278	10.3%
観　　光	143	116	141	62	33	1.2%
作　　業	40	45	43	36	38	1.4%
渓流釣り	32	43	25	41	40	1.5%
写真撮影	21	21	23	15	13	0.5%
自然観賞	14	18	13	12	22	0.8%
山岳信仰	9	15	4	8	4	0.1%
狩　　猟	8	9	5	9	6	0.2%
ス　キ　ー	72	77	86	94	52	1.9%
そ　の　他	92	147	73	66	65	2.4%
不　　明	11	17	16	11	5	0.2%
合　　計	2,929	3,111	3,129	2,937	2,697	100.0%

目的別山岳遭難者構成比の推移

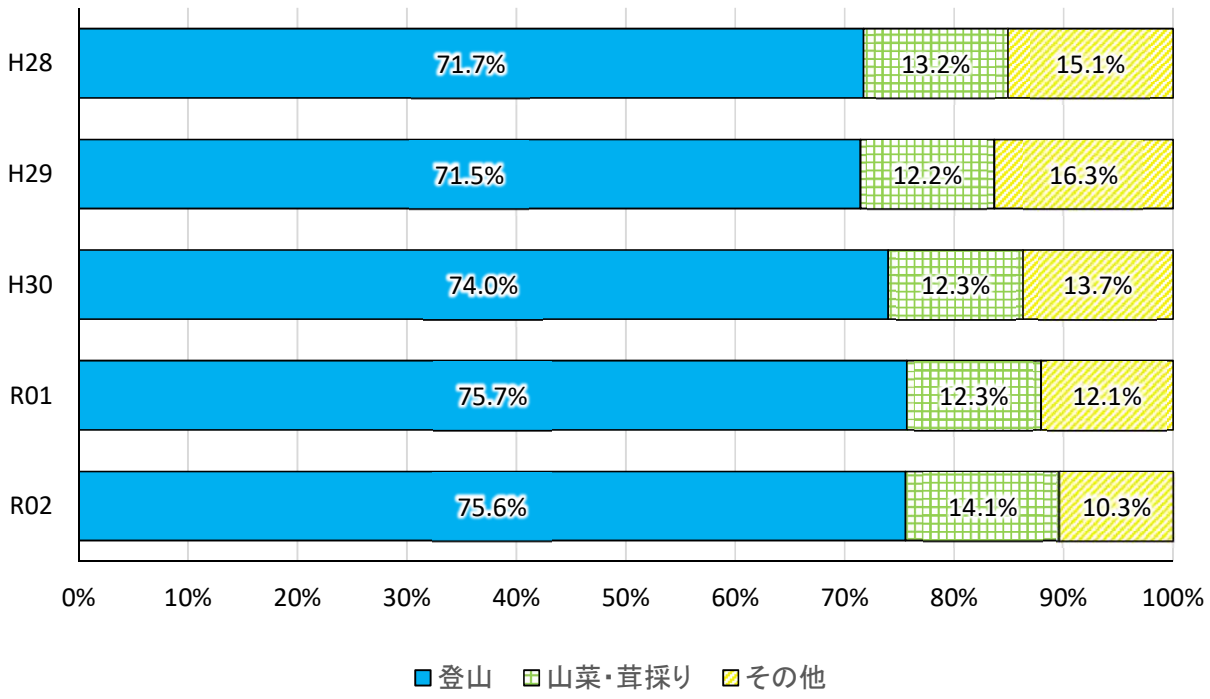


表4　態様別山岳遭難者

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
道　迷　い	1,116	1,252	1,187	1,142	1,186	44.0%
滑　落	498	524	544	485	423	15.7%
転　倒	471	469	468	492	371	13.8%
病　気	229	232	276	205	188	7.0%
疲　労	204	175	237	219	170	6.3%
そ　の　他	411	459	417	394	359	13.3%
転　落	108	100	100	88	93	3.4%
悪　天　候	18	18	39	15	27	1.0%
野生動物襲撃	42	63	18	62	39	1.4%
落　石	16	13	11	10	8	0.3%
雪　崩	8	65	5	9	8	0.3%
落　雷				3		
鉄　砲　水	2					
有　毒　ガ　ス						
そ　の　他	146	116	149	135	105	3.9%
不　明	71	84	95	72	79	2.9%
合　計	2,929	3,111	3,129	2,937	2,697	100.0%

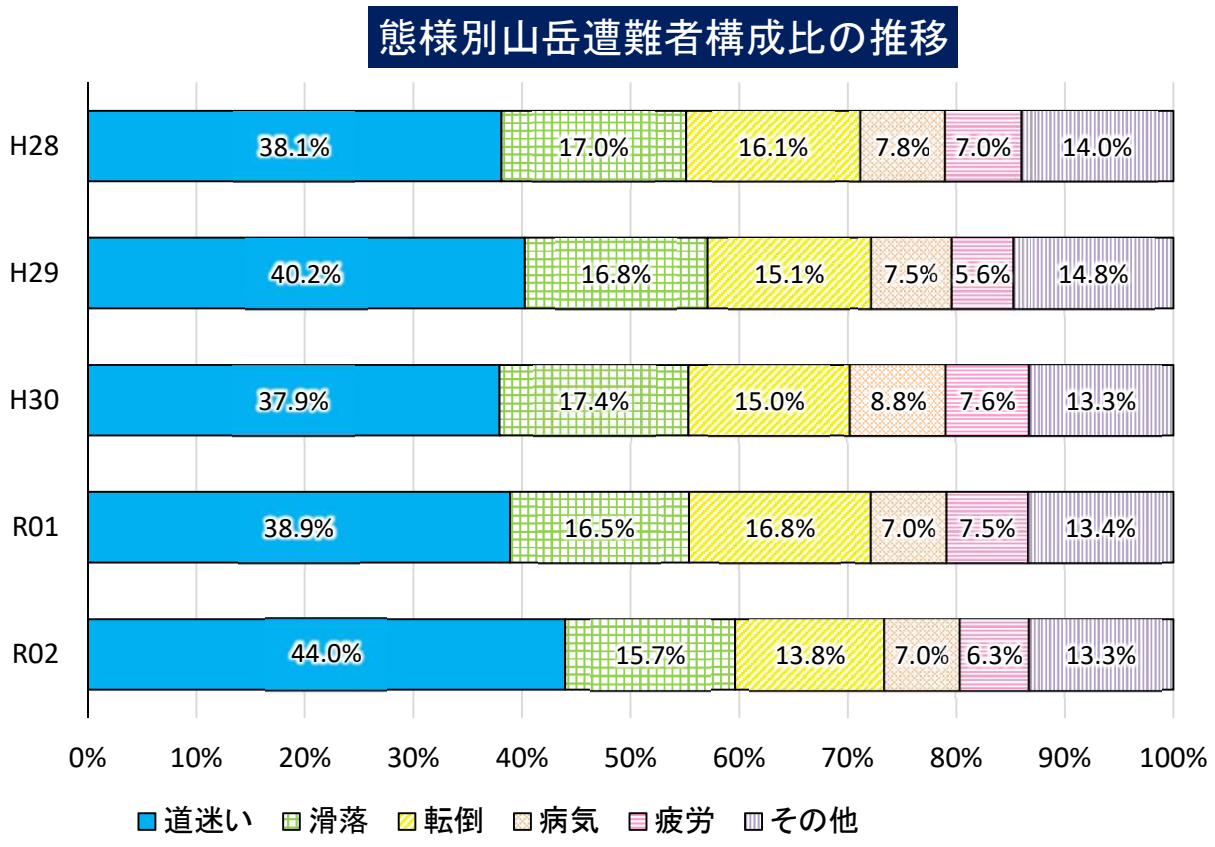


表5　年齢層別山岳遭難者

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20　歳　未　満	174	189	176	137	154	5.7%
20　～　29	194	261	216	207	194	7.2%
30　～　39	291	240	280	258	231	8.6%
40　～　49	366	378	390	396	321	11.9%
50　～　59	421	455	486	451	444	16.5%
60　～　69	746	741	692	640	511	18.9%
70　～　79	565	669	698	668	636	23.6%
80　～　89	161	165	181	173	196	7.3%
90　歳　以　上	10	13	10	7	7	0.3%
不　明	1				3	0.1%
合　計	2,929	3,111	3,129	2,937	2,697	100.0%

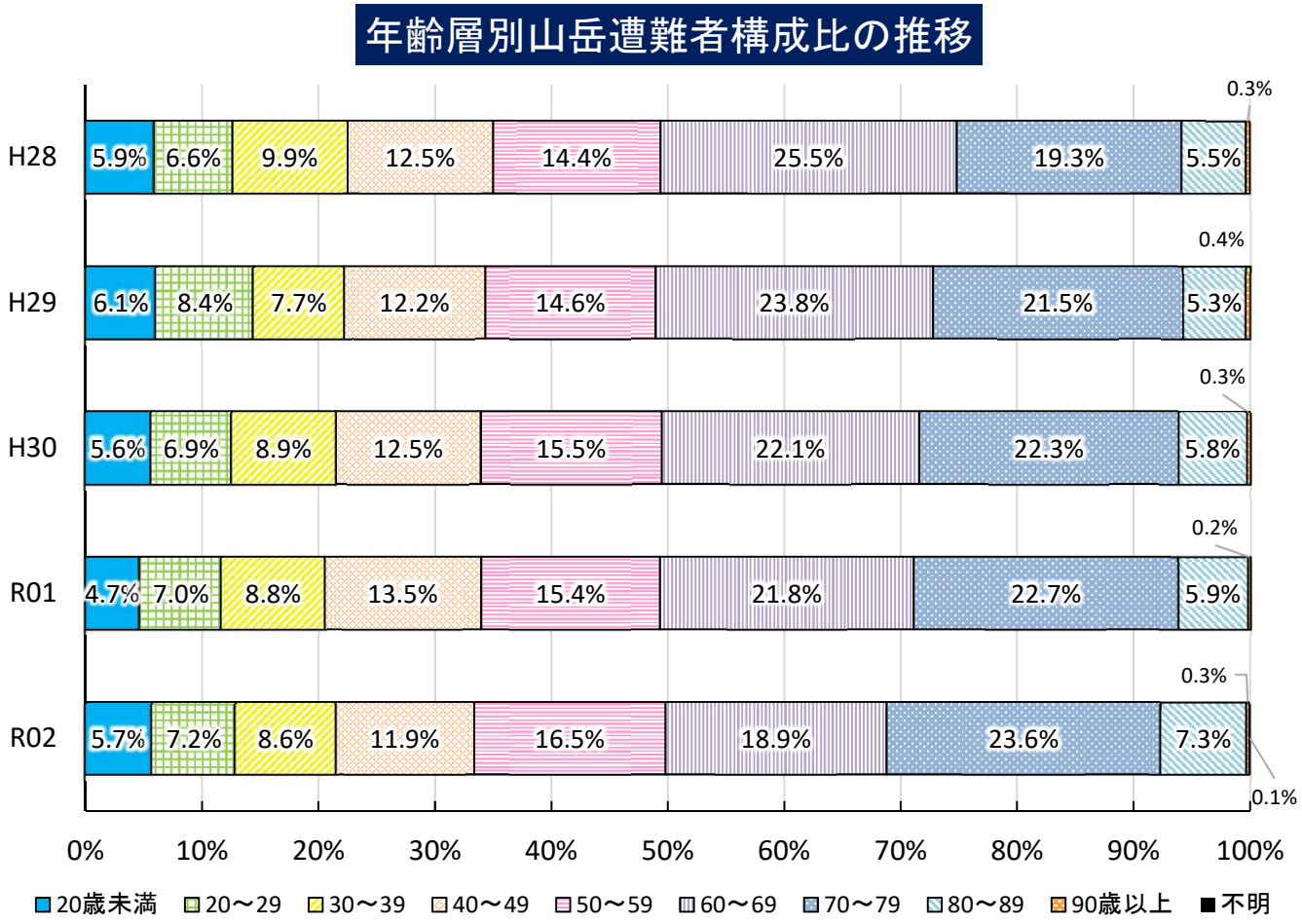


表6　年齢層別山岳遭難者（死者・行方不明者）

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20　歳　未　満	4	10	1	2	2	0.7%
20　～　29	12	10	3	10	8	2.9%
30　～　39	13	19	13	13	14	5.0%
40　～　49	28	23	37	30	16	5.8%
50　～　59	46	63	42	38	35	12.6%
60　～　69	101	111	101	78	69	24.8%
70　～　79	76	81	110	93	96	34.5%
80　～　89	36	33	32	34	37	13.3%
90　歳　以　上	2	4	3	1	1	0.4%
不　明	1					
合　計	319	354	342	299	278	100.0%

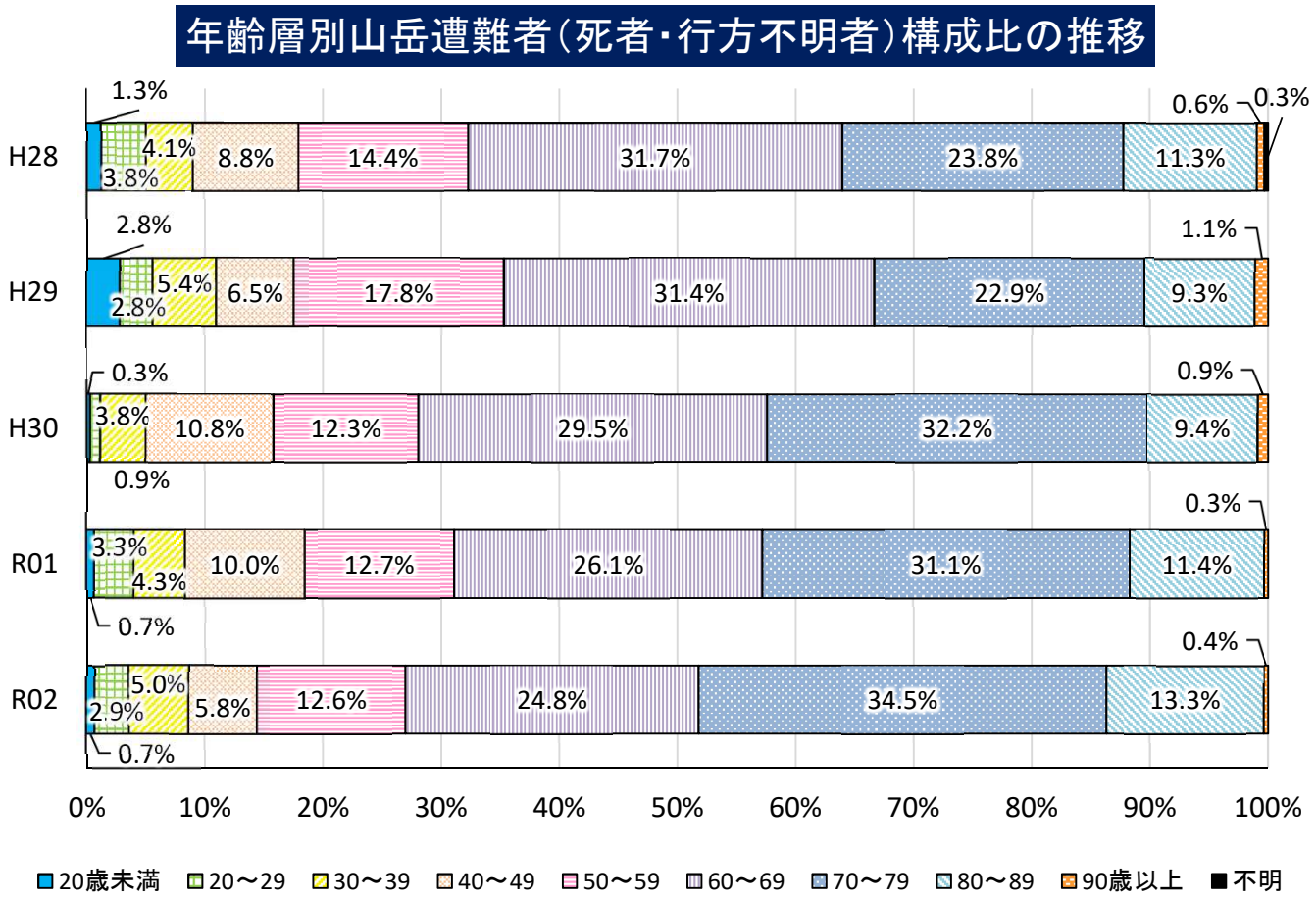
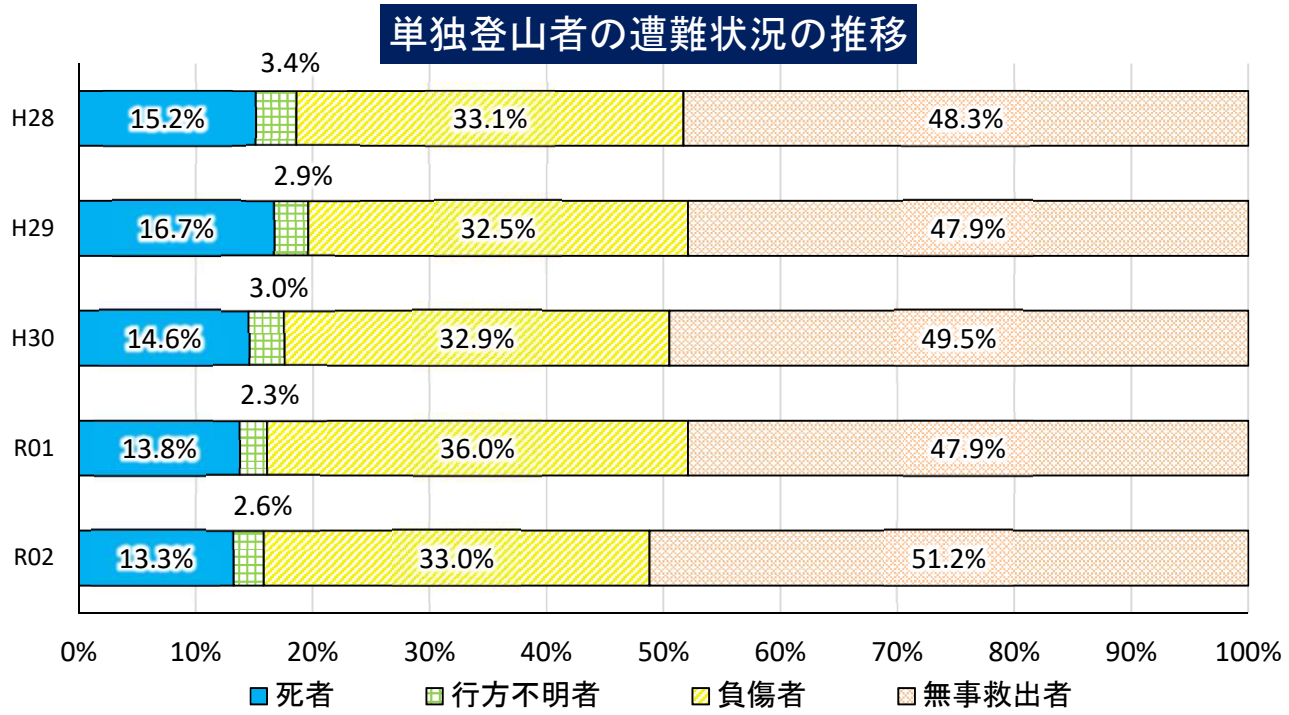
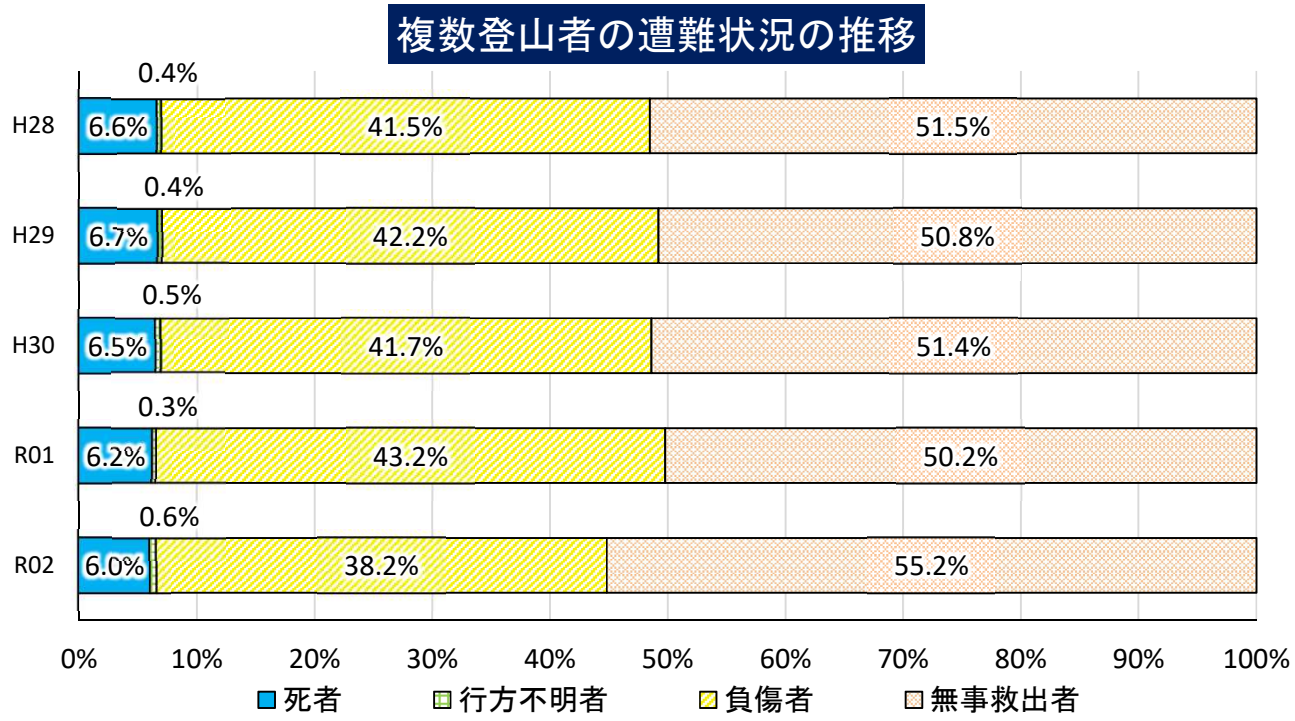


表7　単独登山者の遭難状況

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
遭難者	988	1,069	1,170	1,117	1,086	
死者・行方不明者	184	210	206	180	172	15.8%
死者	150	179	171	154	144	13.3%
行方不明者	34	31	35	26	28	2.6%
負傷者	327	347	385	402	358	33.0%
無事救出者	477	512	579	535	556	51.2%
全遭難者に占める単独登山者の割合	33.7%	34.4%	37.4%	38.0%	40.3%	

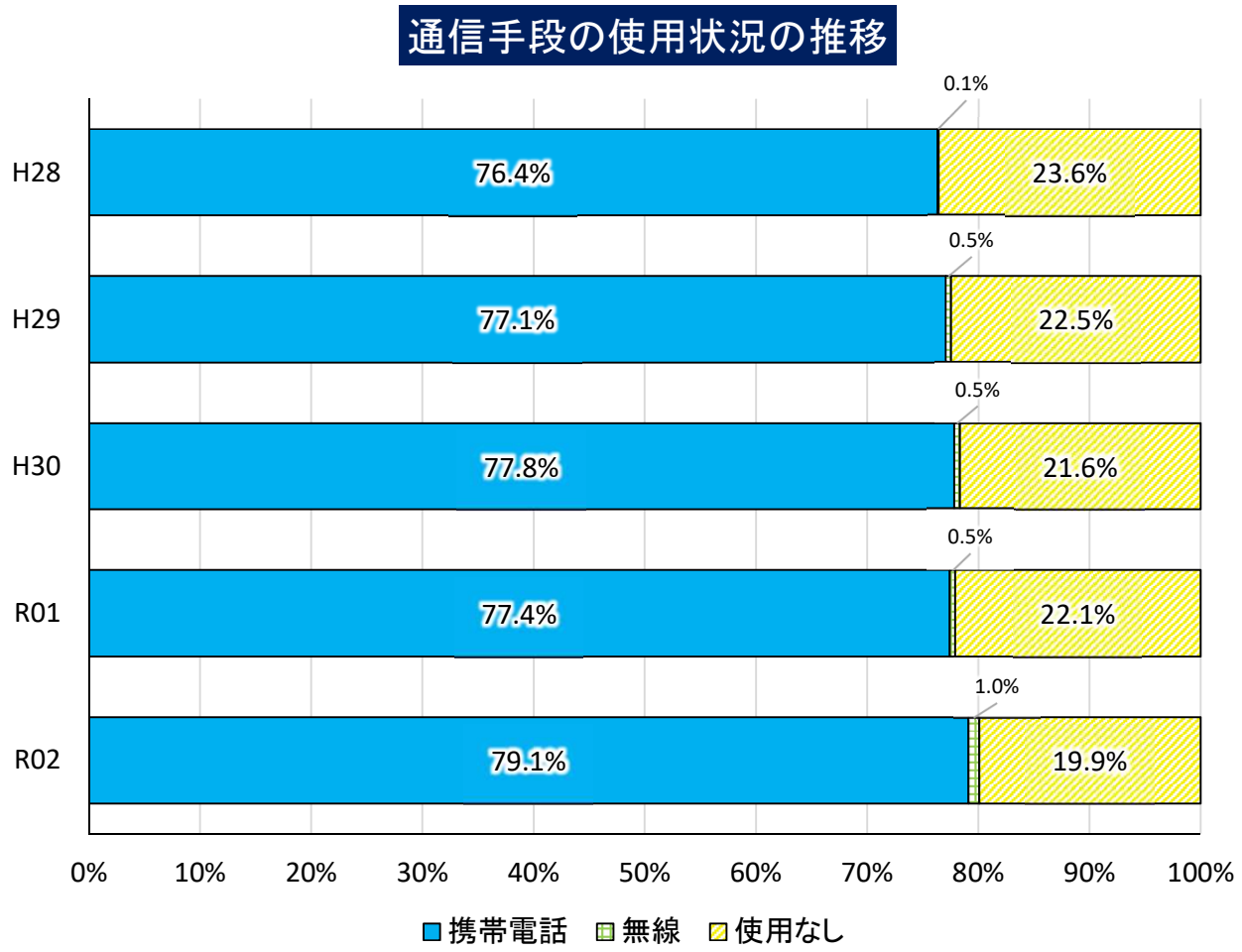




注:この頁における「登山者」とは、目的が「山菜・茸採り」「観光」等の者も含む。

表8　通信手段の使用状況

		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	
		件数	件数	件数	件数	件数	構成比
発生件数		2,495	2,583	2,661	2,531	2,294	
使用あり		1,907	2,003	2,085	1,972	1,837	80.1%
	携帯電話	1,905	1,991	2,071	1,960	1,815	79.1%
	無線	2	12	14	12	22	1.0%
使用なし		588	580	576	559	457	19.9%

注1：通話エリア圏外、バッテリー切れ等は「使用なし」に含む。

注2：携帯電話・無線機併用は、無線機に計上。